

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 26日から27日にかけて、本州の南岸から日本の東に低気圧が進む。
- 28日から29日にかけて、低気圧が日本海から千島近海に進み、前線が北日本を通過する。
- 29日から30日にかけて、前線が東シナ海から日本の南にのびる。高気圧が黄海を東へ移動する。

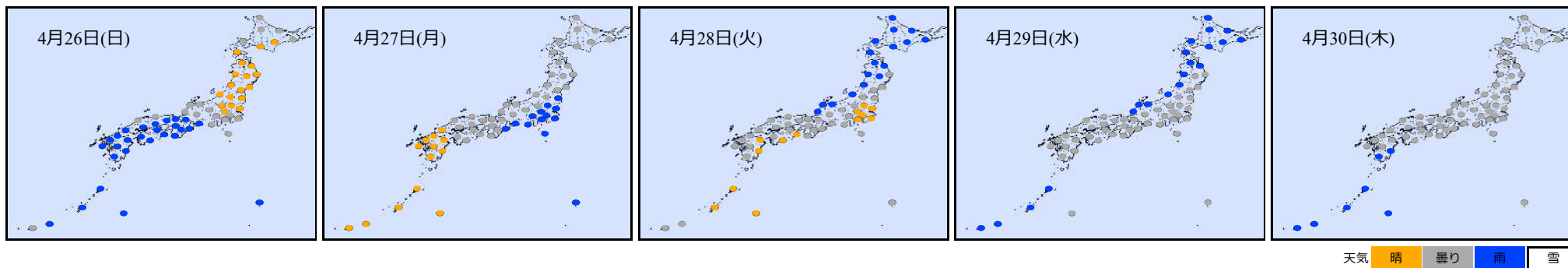
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

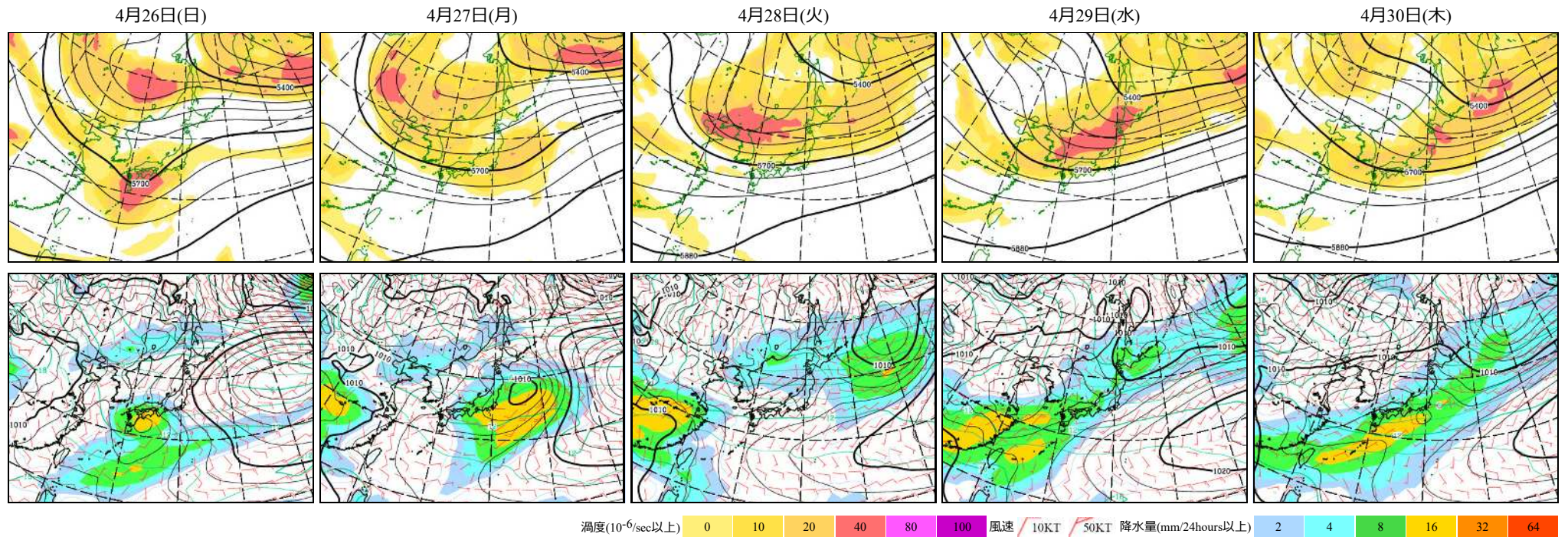
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

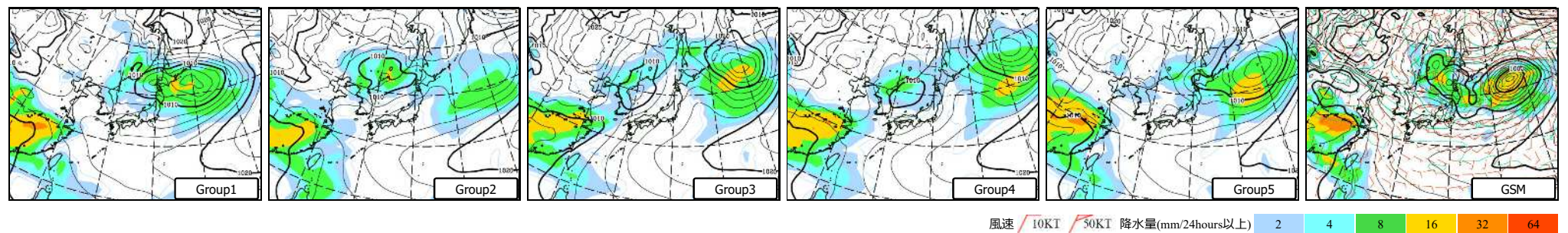


- 北日本と東日本日本海側は、26日は晴れる所が多いが、27日から30日にかけては曇りや雨の降る所が多い。
- 東日本太平洋側は、雲が広がりやすく、27日は雨の降る所が多い。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、26日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、26日と29日から30日は曇りや雨となるが、27日と28日は晴れる所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月28日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日は四国沖で低気圧が発生し、27日にかけて日本の東へ発達しながら進む予想となった。このため、降水確率ガイダンスの値が26日は西日本、27日は東日本で大きくなった。28日から29日にかけて北日本付近を東進する低気圧の進みが早くなった。
- モデル間の差は27日までは小さいが、28日以降はトラフの進みや形に違いが見られ、日本付近を進む低気圧や高気圧のばらつきが大きい。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。